

# 宇品カレッジ1期

## 海に開かれた都市・広島 ―城下町建設以前の広島湾をめぐって―

私たちが暮らす「広島」は、毛利輝元が天正17年(1589)に築城を開始した広島城の城下町を基盤に発展をとげた地方都市です。それでは、築城以前のこの地域はといったどのような場所だったのでしょくか？ また、なぜ輝元はここに城と城下町を築いたのでしょくか？

この講座では、近年の中世史や中世考古学の研究成果をもとに、広島城築城以前の太田川河口地域の状況を、瀬戸内海をめぐる人や物の動きのなかでとらえることにより、城下町広島が成立・発展した背景を探ります。

[全2回]

◆第1回 12月9日(水)

県立広島大学 准教授 鈴木 康之

「中世瀬戸内の港湾をめぐる物通」

◆第2回 12月16日(水)

広島市郷土資料館 主任学芸員 篠原 達也

「城下町建設以前の広島湾岸地域」

時間：10:30～12:00

場所：宇品公民館 4階 研修室1

対象：どなたでも(全2回参加できる方)

定員：50名(先着順)

参加費：無料

申込み：11月11日(水)より宇品公民館へ  
来館、または電話で

主催：県立広島大学・宇品公民館